

ガーナの前期中等教育における学習成果要因 —成績上位校と下位校の比較からの考察—

西 向 堅香子

(帝京大学外国語学部)

1. はじめに

教育は基本的人権であると同時に、習得した知識やスキルで能力を最大限に活かすことにより、貧困削減、雇用創出、経済的繁栄、健康的な生活、民主主義の基盤強化、環境問題への関心喚起など、私たちが必要とする様々な課題に密接に関わり寄与している。特に女子教育は自身の就業や健康の維持、社会参画機会の増加に加え、家族の栄養や健康の向上にも効果をもたらす。身に着けるべき基礎スキルを習得するには基礎教育の修了が求められ、前期中等教育においても、教育の無償化政策は徐々にアクセスの改善をもたらしている。しかしアフリカでは政策文書において強調されている教育の質が現場の学校で妥協されていることが少なくないことは、「生徒の学習到達度調査 (Programme for International Student Assessment: PISA)」や「国際数学・理科教育動向調査 (Trends in International Mathematics and Science Study: TIMSS)」といった生徒の学習成果の評価に表れている。

西アフリカのガーナは、人材育成を社会発展の鍵と見なし、教育を国家開発計画に欠かせない礎と位置付けている。ガーナは初等教育と前期中等教育の義務化と無償化を1996年から2005年までに達成することを定めた基礎教育の無償化、義務化、普遍化 (Free, Compulsory, Universal Basic Education: FCUBE) プログラムを押し進めてきた。現在は、教育制度において2年間

の就学前教育、6年間の初等教育、3年間の前期中等教育を基礎教育とし、その後3年間の後期中等教育、そして職業高等専門教育や高等教育などが続く。2000年から出されている教育戦略計画 (Education Strategic Plan: ESP) では、2003-2015年版及び2010-2020年版において、アクセス、公正性、そして質を伴った教育の提供の目標を明記している。しかし、経済協力開発機構 (Organisation for Cooperation and Development: OECD) による生徒の学習到達度の国際比較でガーナは76か国中最下位であり、教育の質や学習成果について改善の余地は大きい (OECD 2015)。最新版の教育戦略計画 2018-2030年版においても、すべての子どものために教育の質の改善への取り組みを強調している。2016/17年の前期中等教育の総就学率 (GER) は87%と2013/14年の82%から僅かに増加しているものの (MoE 2019a p. 10)、19%もの生徒が1年生を繰り返すことから (MoE 2019b p. 5) 就学と学習成果に乖離が見られる。ガーナの前期中等教育の現場においてどのような課題があり、学習成果の高い学校と低い学校における生徒の学習を取り巻く状況の違いを明らかにすることは学習成果改善の一步につながる。

本研究の目的は、前期中等教育の現場レベルにおける学校教育改善実践及び工夫の「グッド・プラクティス」を明らかにするものであり、教育の質を反映する学習成果の指標となる基礎教育終了資格試験 (Basic Education Certificate Examination:

BECE) の結果から選出した成績上位校と下位校を比較し調査を行ってきた。学校が抱えている課題と学校レベルで行っている学校教育改善実践例については、別稿(西向・Kwaah 2015)にあり、後項でも一部触れるが、本稿では、教員と生徒を対象とした質問票を基とした学習成果の差を生む要因について考察する。以下に、生徒の学習成果に影響を与える要素を概観し、本研究のデータ収集について調査方法を述べ、調査結果として、成績上位校と下位校との比較を軸に、教員の特性と教授、生徒の特性と学習、カリキュラムと教室について明らかにする。最後にこれらの調査結果から得られた成績上位校と下位校の共通項と差異から学習成果に及ぼす要因について纏め、今後の課題を提示する。

2. 学習成果に影響を与える要素

学習成果については、1990年の万人のための教育(Education for All: EFA)のジョムティエン会議で採択された『万人のための教育世界宣言』の前文第4条においても「学習の成果に焦点を当てる」と確認されている(小川・江連・武 2005 p.7)。効果的な学習成果を得るには教育の質が担保されなくてはならない。教育の質は構成する要素が相互に関わるため定義づけは困難な上に多様であるが、UNICEF(2000 p.4)は教育の質を以下の5つを含んだものと定義している。

- I. 健康で栄養状態が良く、学習に参加する準備ができていて、家族やコミュニティに学びをサポートされている学習者
- II. 健康的かつ安全で、保護されジェンダーにも配慮され、適切な教材や設備を提供する環境
- III. 特に読み書き計算、生活スキル、ジェンダーや健康、栄養やHIV/AIDS防止

や平和といった知識を含んだ基本的なスキル獲得を適切にカリキュラムと教材に反映した内容

- IV. よく管理された教室と学校で研修を受けた教員による子供中心の教育アプローチと学習を促進し格差を減らす評価のプロセス
- V. 知識やスキル、態度を含めた成果であり、国の教育目標や積極的な社会参加につながるもの

つまり、教育とは家族やコミュニティの理解とサポートを受けた学習者が、研修を受けた教員から安全で適切に配慮と管理された学習環境で適した教授法で生活に必要な基本的なスキルを学び習得し、自立して社会参加していく力を身に着けることである。また、Ankomah, Koomson, Bosu and Oduro (2005)は、教育の質は設備や建物、リーダーシップ、行政、管理、教員養成、教材、教授、生徒の到達度といった教育制度の重要な側面と関係しているとし、保護者が子どもを学校に行かせる判断も教授と学習の質に係っていると指摘している。質を伴った教育を提供する上で、教育行政の向上、教員及び学校という空間が果たす役割の重要性は強調し過ぎることはない。

教育で身に着ける力である学習成果であるが、効果的な学習成果をもたらす要因を明らかにすることは教育の質向上への寄りにつながる。本稿では、政府が目標に掲げている質を伴った教育の提供を現場である学校が効果的に提供するあるべき姿を構築していくために、McBer(2000)の教員の有効性のフレームワークを使用する。理由としては、McBer(2000)は生徒の学習達成を促す効果的な教育にどれもが互いに相乗効果を生む教授スキル、職業的な特性、教室の雰囲気の3点を挙げており、これらはどれもほぼ教員主導で改善でき、生徒の学習向上に大きな影響を及ぼすからである。ガーナは地方分権化が進み、学校裁量で様々な

創意工夫がなされていることもあり、教員の果たす役割は一層大きい。以下は教授スキル、職業的特性、教室の雰囲気それぞれを纏めたものである。

職業的特性は教授スキルをなすために必

要な教員の特性であり、教室の雰囲気は生徒が9つの事項をどう捉えるか理解した上で、教員が作り出さなければならない。教員は生徒の目線やニーズに基づいたアプローチをとる必要がある。本稿では以下に、

表 1. 生徒の学習に影響を及ぼす教員の有効性

<p>[I. 7つの教授スキル]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒が安心して学びにチャレンジし効果的な理解につながるスキル ② 生徒への言行一致した期待とコミュニケーション ③ 明確な授業目的を伴い時間配分を含めた授業計画 ④ 多様な教授戦略と教授方法 ⑤ 生徒の管理としつけ ⑥ 適切な教材を使用し適した時間配分で授業を行う時間と資源の管理 ⑦ 授業学習と調和した宿題、講義や相互学習やテストなどをバランスよく入れ込んだタスク時間の授業の流れ
<p>[II. 5つの職業的な特性]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 専門性（生徒や学校関係者の尊重、心身ともに生徒をケアし最上の教育を提供するチャレンジとサポート、学校現場に貢献する中で様々な場面に対応する自信、生徒と公正で首尾一貫とした信頼関係構築力） ② 原因や結果、今後の影響を理解する分析的思考及び行動や状況パターンを理解し優れた教授力で構想や良い実践を適用することができる概念的思考といった思考力 ③ 絶え間ないエネルギーと好奇心を伴った情報収集、主導権を駆使する計画性と期待設定 ④ 必要な状況に対応できる柔軟性や行動に伴う責任感、生徒を奮起させて指導する管理能力、生徒の学習を支援し自信をもって独り立ちできるように導く情熱を含む主導権 ⑤ 成果達成に向けて他者に与える影響力や共通目標達成のために他者を理解し協働するチームワーク
<p>[III. 教室の雰囲気]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業や科目、学校の目的などにおける明確さ ② しつけや礼儀ある振る舞いが維持される指示 ③ 生徒の振る舞いや達成目標の基準 ④ 生徒をひいきしない公平性、授業内の議論や質問 ⑤ 教材配布などの活動への生徒の積極的な参加 ⑥ 生徒の挑戦や間違いから学ぶことを後押しされていると感じられるようなサポート ⑦ 教室はいじめやその他のリスクのない心身ともに安全な場所と思える安全性 ⑧ 生徒が学びの刺激を受け教室は楽しい場所と思える面白さ ⑨ 教室はきれいで快適で魅力的な環境だと思える環境 <p style="text-align: right;">出典：McBer 2000</p>

教育において中心的な役割を果たす教員の資質を挙げている McBer (2000) の教員の有効性を参照しながら、調査したガーナの成績上位校と下位校におけるこうした有効性に関わる要素の差異や共通項の有無を検証し、調査地における学習成果に及ぼす要因を明らかにしたい。

3. 調査方法

調査地域はガーナの中央州 (Central Region) の中心であるケープコースト・メトロポリタン (Cape Coast Metropolitan) と貧困地区 (deprived area) とされるファンテマン郡 (Mfantseman District) である。調査は教員と生徒を対象とした質問票調査を 2015 年 2 月から 3 月に 3 週間程行い、調査対象校は BECE の試験結果をもとに 2013 年に行った 1 回目の調査で選出したケープコースト・メトロポリタンの成績上位校 3 校と下位校 3 校、そしてファンテマン郡の成績上位校 3 校と下位校 3 校である。

本調査の回答教員数は、成績上位校の 27 (男性：18、女性：8、不明：1) と下位校の 28 (男性：19、女性：9) を合わせた 55 である。上位校・下位校ともに男性教員が多いが、これについてはガーナの前期中等学校では男性教員が 74% で女性教員が 26% (World Bank 2018 p. 5) と、圧倒的に男性教員が多い現状を反映している。教員の勤務年数は 5 年以下の教員が 10.9% (成績上位校：1.8%、下位校：9.1%)、6 年から 10 年が 25.5% (成績上位校：12.7%、下位校：12.7%)、11 から 15 年が 41.8% (成績上位校：27.3%、下位校：14.5%)、16 から 20 年が 9.1% (成績上位校：3.6%、下位校：5.5%)、20 年位以上が 12.7% (成績上位校：3.6%、下位校：9.1%) であった。本調査に参加した教員は全員有資格教員である。生徒の回答者数は、成績上位校の 146 (男

子：44、女子：101、不明：1) と下位校の 112 (男子：65、女子：47) の計 258 である。就学率の男女比は 51：49 とほぼ均等であり、本調査の成績上位校には女子校が含まれていたため女子回答者数が男子を大きく上回った。調査の際に 2 年生を対象とするように教員に依頼し質問票を配布しており、成績上位校、下位校問わず学齢期の 13 歳や 14 歳は 47 人 (18.2%) のみで、15～16 歳が 127 人 (49.2%)、17～19 歳が 63 人 (24.4%)、20 歳以上が 5 人 (1.9%) と学齢を超過した生徒が 8 割近かった (無回答は 16 人 (6.2%))。前期中等教育の GER (粗就学率) が 86% で NER (純就学率) が 48% (World Bank 2018 p. 5) というデータが表す学齢超過者の多さを裏付ける形となった。

質問票の中には同意の程度を尋ねたものが複数あり、5 段階もしくは 4 段階のリッカート尺度を使用し回答を得た。回答の平均値が低ければ低いほど同意の程度が高いことになる。回収した質問票のデータはエクセルに落とし、成績上位校と下位校の比較を軸に分析している。

4. 調査結果

4-1 教師の特性と教授

本調査においては全教員が有資格者であり、この点は成績上位校、下位校に差はない。しかし、1 回目の調査で上位校は郡が実施する研修以外にも学校独自で研修の場を設けている学校が複数あることが明らかになった。研修は郡による研修を受講後に校長を含む他の教員に受講内容を講義し共有する形や、若手教員が先輩教員に向けて当時の教員養成時には学ばなかったインクルーシブ教育について講義する形などがあった。地方分権が進み学校裁量で行うことが増え、自律性のもとに学校独自の工夫や取組がなされている。この点において補助金を学内教員研修に使用する意欲と決

断、行動力は、上位校の教員の方が下位校の教員より高いと言える。これは、質問票で教育の阻害要因として挙げた項目の「教えることに自信がない」に5段階リッカート尺度で同意の程度を尋ねた回答において、上位校の教員の平均値が4.14（下位校は3.73）と同意の程度が非常に低かったこと、また、4段階リッカート尺度で「自分の授業」についても上位校で1.73と高い満足度とつながり（下位校でも1.70と高かったが）、研修によって教科教育の改善が実践でき教員としての特性を増していることが分かる。また、生徒に4段階リッカート尺度で「質問すると先生は良く教えてくれる」について同意の程度を尋ねたところ、上位校の平均値は1.17と非常に高い同意を得た（下位校は1.27）。上位校の学内教員研修はMcBer(2000)の職業的な特性を活かし教授スキルの向上につながっていると言える。教員自身も自身の教授スキルに手応えを感じ、生徒はそれを授業で教室の雰囲気として受け取り、表2. 生徒の自由記述回答例に抜粋したように肯定的なフィードバックにつながっている。

さらに、表2. 生徒の自由記述回答例に多少挙げたものの、生徒に「学校の好きなこと」について自由記述で尋ねたところ、成績上位校では教員の熱意や責任感、教科指導力、また生徒を受け入れる力といった教員の資質に関する回答が非常に多かった。生徒に「ロールモデル」の存在を尋ねた回答からも、上位校の30.8%の生徒が「教員」をロールモデルとしていると回答した（下位校では25.9%）。上位校の生徒はより教員に対する憧れや信頼が強いことが明らかである。下位校においても「学校の好きなこと」について教員の熱意と教科指導力を挙げる回答が1つずつ、「teaching」という回答が複数あったものの、大多数がクイズ大会やサッカー競技、好みの科目を挙げていた。この上位校の教員の熱意や責任感と

いった職業的特性もまた生徒たちの授業や科目、学校の目的などにおける明確さ、及び生徒が挑戦や間違いから学ぶことを後押しされていると感じられるようなサポートがある教室の雰囲気を作り出している。

「教員に改善してもらいたいこと」を尋ねた回答にも教員の資質に関する回答が見られた。教え方の改善を求める声は上位校、下位校問わずあるものの、上位校では、「理解を確認するためのテスト回数増加」や「これまで通りの熱心な指導継続」、また「親への子どもの学習支援や養育の働き掛け」、「PTA 会合への参加を促す働き掛け」、「生徒の悪事の罰としての登校停止は学習時間減少になるので禁止」を求める声が目立った。教員に改善を求める内容を尋ねたものの、生徒の学習への意欲や意識、また生徒は親にもっと教育への理解やサポートを求めていることを伺える回答が多かった。但し、複数の上位校で学業を重視するため体育の授業を他の教科科目に変更していることもあるようで、「体育の授業」を求める声も少なくなかった。下位校に多く見られた特徴的な回答としては、教員に「英語の使用」や、「欠勤や遅刻なしの出勤」、また「他校で行われている課外補習授業 (extra classes)」を求める声があった。国語の一部の授業を除き、授業は英語で行われることになっているものの母語で行う教員が少なくないこと、また、欠勤や遅刻する教員が少なくないことが明らかになった。加えて、上位校でも見られるものの、「鞭を使用する体罰の禁止や回数の削減」を求める声は圧倒的に下位校に多く、また下位校では「侮辱的な言葉の使用」や「大声で怒鳴るのを止めてもらいたい」「授業内には携帯電話を使用しないで欲しい」という声も少なくなかった。不適切な勤務態度も含めて教員の資質に改善が求められる点である。教員には生徒の適した振る舞いを維持するための指示や指導は求められるものの、体罰や怒声、罵声

を使用することによって生徒を管理するのではなく、寧ろ生徒を奮起させて指導する管理力が必要であり、こうした改善を求める声の下位校に集中していることは、教員の特性と学力との関係性を示唆することができると考えられる。これらの教員は専門性は勿論、必要な状況に対応できる柔軟性や行動に伴う責任感、生徒を奮起させて指

導する管理力、生徒の学習を支援し自信をもって独り立ちできるように導く情熱を含む主導権といったような職業的特性を磨き、教授スキルと教室の雰囲気の上向上に努める必要がある。

4-2 生徒の特性と学習

生徒の「学習態度」に関する教員の満足

表 2. 生徒の自由記述回答例

<p>【生徒に学校に関する好きなことを尋ねた代表的回答】</p> <p><上位校の特徴と言える教員の資質に関する回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I like the school because the teachers are committed in teaching. ・ I like my school because they are very responsible in everything they do and the teachers are always ready to teach at anytime. ・ Because all the teachers teach very well and always give us correct or positive answers when we ask. <p><上位校の特徴的な他の回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Learning, because I acquire skills, knowledge and good attitude. ・ I like studying so that I can achieve my aim. ・ The aspect that I like is learning because the teachers always teach well and smile to us. <p><下位校の特徴的な回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I like the monthly quiz. ・ Football because we can do well about that. ・ Teaching.
<p>【生徒に学校に改善してもらいたいことを尋ねた回答例】</p> <p><上位校の特徴的な回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I want the school to improve their quiz because it helps us to learn hard. ・ I want the school to change from the time we spend on assembly so that we go to class and learn. ・ I want the school to improve upon its performance during the BECE. <p><下位校に特徴的な回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My school should organise extra classes. ・ The improvement of girls club because some girls get pregnant anyhow when we are about to write BECE. ・ I want my school to improve on its teaching by advising the teachers and provision of textbooks.
<p>【生徒に先生に改善してもらいたいことを尋ねた回答例】</p> <p><上位校の特徴的な回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I would like the teachers to improve by motivating the parents to help their children in studying. ・ I would like teachers to improve in talking to parents about how to take care of their children. ・ I want the headmistress to motivate our parents when there is parents teachers association. ・ I want the teachers to improve on our class test at least once in a week. ・ I want the teachers to stop using the P.E period for studying. <p><下位校に特徴的な回答例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Speaking of English language because we want to speak English. ・ I want the teachers to take time in teaching so that we could understand it very well. ・ I want the teachers to come to school on time every day and teach. ・ Too much of caning is bad.

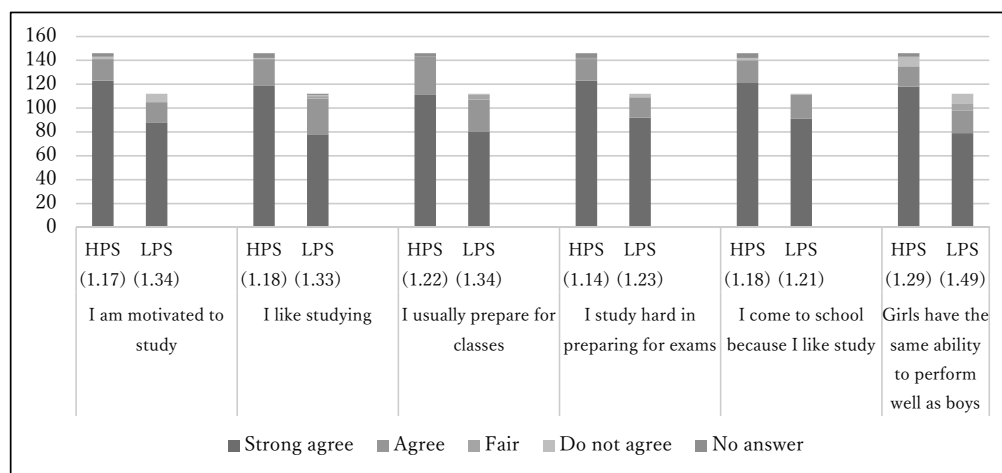
度については成績上位校の方が平均値がやや高いものの(1.46)下位校も高く(1.50)有意な差は見られなかった。しかし、生徒に尋ねた授業時間外の学習時間には差異が見られた。途上国の子どもは家事や農作業などの家の手伝いに従事すること、またその手伝いが時に教育の妨げの一因になり得ることはよく知られている。本調査においても上位校、下位校問わずにほぼ全員が従事し、掃除や兄弟姉妹の世話、料理や皿洗い、水汲み、スナックなどの物売りといった内容にも差異は見られなかった。しかし、授業時間外の1日当たりの学習時間について、7人(2.7%、成績上位校:0.4%、下位校:2.3%)が「全く勉強しない」と回答し、「30分以内」が41人(15.9%、成績上位校:6.6%、下位校:9.3%)、「1時間以内」が97人(37.6%、成績上位校:21.3%、下位校:16.3%)、「1~2時間」が62人(24%、成績上位校:15.9%、下位校:8.1%)、「2~3時間」が36人(14%、成績上位校:9.3%、下位校:4.7%)、「3時間以上」が14人(5.4%、成績上位校:2.7%、下位校:2.7%)、無回答が1人(成績上位校で0.4%)と、成績上位校の方が学習時間の長い生徒が多かった。また、以下の表3は生徒の学習意欲や

意識、行動に関する各項目について生徒から得た同意の度合いを纏めたグラフである。HPSは成績上位校、LPSは下位校を指し、続く括弧の数値は同意の平均値であり、1に近いほど同意の度合いが高い。微差ではあるものの全ての項目で上位校の生徒は下位校の生徒より高く、上位校の生徒はより高い学習意欲や意識、行動を有していることが明らかになった。教員の特性と教授で明らかにしたように、教員の職業的な特性をもって教授スキルを発揮すると、生徒は教室の雰囲気や肯定的に捉え、積極的な学習意欲につながると考えられる。

4-3 カリキュラム

ガーナの前期中等教育のカリキュラムは、数学・化学・英語・ガーナの国語は2012年以来、それ以外の科目は2007年以来改訂されていない。今なお暗記による試験型内容が多いことから教員は授業時間でカリキュラムを終えることが困難である。成績上位校には課外補習授業を行うことによって足りない時間を補っている学校が複数あった。カリキュラム改訂を求める声もあったが、これについては2019/2020年度から新カリキュラムが導入されることが発表さ

表3. 生徒の学習意欲や意識、行動に関する同意の度合い



れた。この導入により、‘chew, pow, pass and forget’ と言われるような詰め込んで試験を受けた後に忘れてしまうような暗記型のものではなく、生徒の成長に焦点を当て、社会で役立つような学習内容のものになる予定である。調査時では、課外補習授業を行っていない下位校の生徒から「他の学校のように課外補習授業」を求める声が複数あった。

一方、表2にも挙げたが、上位校では体育でない教科を重視して、代替授業を行っている学校が複数あった。この背景には多くの知識を詰め込むカリキュラムを教員が消化するため主要教科偏重傾向、また教員は生徒の BECE の試験結果を伸ばしたいというプレッシャーがある。シラバスによると、体育は健康的な生活を送るための運動の参加、試合やスポーツへの関心や競技を通して健全な精神、精神的、道徳的、そして社会的なスキルを身に付け、自信をもって自立した人になるという目標を有している (MESS 2007)。生徒の心身の健全と自信をもって自立して生きていくスキルを習得するためにも、知育偏重による体育の授業軽視が複数の上位校で見られるのは問題である。

4-4 教室

本研究の第1回目の調査で生徒の規則的な通学と教育の質の阻害要因を尋ねた質問について、40近い阻害要因項目の中から成績上位校、下位校ともに同意の度合いが最

上位となった回答は学校設備や備品の不十分さであった (西向・Kwaah 2015)。学校を訪問した際にも簡素な造りで、電気がない薄暗い教室で教科書も足りない状況で授業を行っている学校が多かった。今回の調査でも、補助金使用の優先項目について5段階リッカート尺度で尋ねたところ、以下の表4の通り、教材や学校設備、トイレや水の衛生設備といった学習環境に直結する回答、そして学習効果を測る試験、教材の取扱いや施設設備、教育課程や学内組織を含めた学校教育に関わる管理運営を優先したい意向が明らかになった。

また、1回目の調査で学校環境を良くする取組実践の有無を尋ねたところ、上位校では73.3%の教員が同意した一方、下位校では51.6%の教員が行っていると回答した。取組内容は清掃やトイレ設置、書籍や教材購入、植樹活動、生徒と教員の関係強化だが、こうした学校を良くしたいという取組が学習環境の向上につながっていることは否めない。

教室に限定せず、学習環境について生徒が改善を希望することは非常に多い。物理的なものでは「生徒数にあった教科書と机」「教室の増築」「トイレの設置」「給食プログラム」「水飲み場の設置」「壁の塗り替え」「教材をしまう鍵付きの棚」「コンピューター」「図書館」に非常に多くの声が上がった。どれも生徒が健康で安心して充実した学びを得るためには必要なものばかりである。「コンピューター無し」のICTの授業はよく分か

表4. 優先したい人頭補助金使用項目の上位5項目

	High-performing schools	Low-performing schools
1	Teaching & learning materials (1.96)	Teaching & learning materials (1.82)
2	Examinations (2.33)	Examinations (2.30)
3	School management (2.42)	School facilities (2.39)
4	School facilities (2.44)	School management (2.71)
5	Sanitation (2.48)	Sanitation (2.76)

らない」という声が複数あったが、ICTの授業は知識に加えて練習をする機会が不可欠である。実践する機会がないのでは知識の定着がままならず、授業の意味が薄れてしまう。1人当たり年間GHS4.50（日本円で約90円）の人头補助金の使用では賄いきれないものばかりである。これは教員や学校による取り組みの域を超えており、全ての前期中等学校の教室及び学校に必要な設備を規定する設置基準を設け、学習環境を整える必要がある。

また、上記の教員の特性の項で挙げたが、上位校にも見られるものの下位校では鞭を使用した体罰や怒声や罵声の禁止を求める声が非常に多い。下位校の教員も日々の授業の準備に加え生徒の指導を困難に感じることもあるだろうが、生徒が安心して学べる環境は生徒の学習にとって非常に重要である。鞭や怒声の使用による恐怖は自己否定や学習から遠ざかることにもつながり得る。教員は生徒が教室は安心かつ安全で学ぶ楽しい場所と思える環境を提供する必要がある。

5. 終わりに—まとめと今後の課題—

本稿は、調査結果からガーナの前期中等教育において学習成果に影響を及ぼす要因として、生徒の学習を支える教員の資質である職業的特性、教授スキル、教室の雰囲気について論じた。生徒の学習成果を高めるためには、職業的特性は教授スキルを発揮するにあたり必要であり、また教員は生徒がどう感じるかを理解した上で教室の雰囲気を作らなければならない。上位校の生徒は教員による教授や指導に高い満足、また教員も自身の授業に非常に高い満足度を示していた。上位校では郡が実施する研修以外に学校独自で研修の場を設けている学校が複数あった。この研修は教員たちが現状からいかに改善できるか考え、専門性を

磨くために熱意と行動力と同僚とのチームワークといった職業的特性が活かされた成果である。こうした研修の機会が、調査結果に表れたように教員の自信、また知識や教授法の向上につながったと考えられる。教員の熱意や責任感、教科指導力、また生徒を受け入れる力は生徒に伝わり、生徒は学校を好きになり、より熱心に学習するという好循環があることも見てとれる。下位校で顕著に表れた英語使用の要望や、欠勤、遅刻無しの出勤、鞭を使用する体罰や怒声、罵声、また携帯電話の使用禁止を求める声は多く、勤務態度を含めて教員の特性に改善が求められる。こうした教員として否定的な資質は生徒が学ぶ教室環境の安全性を脅かすことにつながる。体罰は生徒の自尊感情を損なわせ、本来なら学校は生徒一人一人のエンパワメントを引き出す場所であるにもかかわらず、恐怖を感じさせるようでは逆効果で欠席や退学の一因にもなり得る。教員には授業のみならず、教員と生徒、そして生徒同士が相談や質問しやすいような、生徒の学びの意欲を支援するような教室の雰囲気を作ることも求められている。

また、学習成果に影響を及ぼす要因として、生徒の強い学習意欲と学習行動があることも明らかにした。上述の繰り返しになるが、教員が専門性を磨く学校独自の行う研修を行うことにより、教授スキルの向上に加え、生徒たちは教室の雰囲気を肯定的に受け止めることができる。調査結果からも、成績上位校の生徒は下位校の生徒よりも授業外学習時間が長く、勉強が好きで普段から授業の準備をし、試験前に一生懸命準備をし、勉強が好きで学校に来る生徒が多かった。また、女子も男子と同様に学び成し遂げることができるという項目においても成績上位校の方が同意のレベルが高いことも見落とすことはできない。上位校の回答者は女子が多く、下位校の回答者は男子が多かったことも一因であろうが、1回

目の調査で教員に女子通学を促進するような取組を行っているか尋ねた際に上位校では56.7%の教員が同意したのに対し、下位校では35.5%と、上位校の方が積極的に取り組んでいることも関係していると考えられる。教育を受けることで知識や価値観を身に付け、権利の主張は勿論、人生を豊かにし社会に貢献することができる。下位校の平均値も決して高くないが、修了せずに姿を消す女子の存在を鑑みると、女子の能力を伸ばし教育継続を鼓舞するロールモデルになるような女性教員の存在は欠かせない。実際に上位校では教員に対する憧れや信頼が強く、30%を越す生徒がロールモデルに教員を挙げていた。ガーナは前期中等教育に女性教員は26%と少なく(WorlD Bank 2018 p.5)、女子の規則的な通学及び学習成果向上のために女性教員養成の必要性を強く指摘したい。

教員からも生徒からも指摘のあった教材の不足については、人頭補助金で賄える部分もあるだろうが、振り込まれる時期も遅い上に1年前の生徒数を基に計算されるために、生徒数が増えた学校では補助金額も不十分な中でのやり繰りになっている。非常に多かったトイレや水飲み場、生徒数に適した机や椅子といった学校設備や給食プログラムについては人頭補助金では対応が難しい。こうした教材不足や不適切な学校インフラ、給食プログラムの課題については政府も認識しており、最新の教育戦略計画であるESP2018-2030(MoE 2019a 2019b)において教育の質と学習効果を高めるために対応を急ぐとしている。

生徒の学習に影響を及ぼす教員の有効性を構成する教授スキル、職業的特性、教室の雰囲気はそれぞれ影響し合っているが、中でも「職業的特性」は他を拡充する事も出来れば損じる可能性もある。本調査における上位校を例に出すと、有資格で研修を受け自信のある教員は生徒が満足する「教

授」で授業を行い、質問にも丁寧に教え、生徒を受け止める余裕もある。それを生徒は感じ取り、教員に憧れ学校を好きになりより「学習」意欲も高まり実際によく勉強し、社会でも活用できるようなスキルを身に付け「生徒の特性」を伸ばしていく。教員が遅刻や欠勤せずに教室で生徒と向き合い、鞭使用の体罰や怒声がなければ生徒は「教室」を楽しく安全な学びの場として捉える。取り組んでいる清掃活動やカウンセリングなどによって、益々学校は快適で魅力的な学びの場となる。「教室の雰囲気」は生徒が教室で感じる集団的認識であり、好ましい教室の効果は、個の生徒にとどまらず、生徒の「学習意欲」や「学習実態」に効果的な影響を及ぼすことができる。「カリキュラム」に関しては改訂が必要な知識重視の暗記型で内容量が多く、授業時間内に終わらせるには困難があり、体育の授業を削り他の教科科目の授業を行っている学校がある。消化しきれない知識詰め込みのカリキュラムやBECEの試験結果のプレッシャーという背景はあるにせよ、教員の判断による知育偏重が体育軽視となり、健全な心身を育成し自信をもって自立した人になるよう設定されている体育のカリキュラムに弊害をもたらし、生徒からの不満も生じている。地方分権化が進み、学校は様々な独自の創意工夫や取組を行っている。研修やクイズや試験、課外補習授業、清掃活動やカウンセリングなどに積極的に取り組む学校が成績上位校により多いことを踏まえると、こうした取組が生徒の学習成果につながっていることは明らかである。

最後に、本稿は学習成果に影響を及ぼすものを、McBer(2000)の生徒の学習に影響を及ぼす教員の有効性ととも成績上位校と下位校という軸で分析し、共通項と差異から探る試みを行った。上位校と下位校に生じた差異から、上位校に見られたように教員の特性が様々な学校独自の工夫や取組

を生み、教授スキルの向上につながり、教室の雰囲気をよくし、生徒の学習意欲と学習実態の向上への連鎖があることが明らかになった。しかし、ガーナの教育においては様々な格差の問題がある。複数指標クラスター調査 (Multiple Indicator Cluster Survey: MICS) 2017/2018 (Ghana Statistical Service 2018, p. 44) によると、前期中等教育の修了率は83%の中、男女、都市と農村、貧富における差は順に83-84、90-78、66-96と、貧富の差、次いで都市と農村における格差が顕著であった。本稿は教員と生徒を対象とした質問票を基とした成績上位校と下位校の比較を主軸として学習成果の要因となるものを明らかにしたが、家族やコミュニティの理解やサポートなど学校外の環境の中心を担う保護者の視点は含まれていない。現在有しているデータを異なる属性でクロスさせることによってさらに必要な課題が可視化される可能性があることから引き続き分析を続けるとともに、保護者の視点を含めるフォローアップ調査を行いたい。

付記

本研究は、科学研究費補助金（平成25-28年度基盤研究（B）（一般））「途上国の前期中等教育における学校改善実践に関する国際比較研究」（研究代表者：吉田和浩）の成果の一部である。また、本研究はケープコースト大学教育学研究科教育研究評価センターのDr. Christopher Yaw Kwaahと行った共同研究である。

参考文献

小川啓一・江連誠・武寛子 (2005) 『万人のための教育 (EFA) への挑戦：日本のODAに対する提言』独立行政法人国際協力機構 国際協力総合研修所

- 西向堅香子・Christopher Yaw Kwaah. (2015). 「ガーナの前期中等学校が書かへる課題と改善実践—成績上位校と下位校の比較から探る予備的考察—」『国際教育協力論集』第18巻第1号 p. 39-50.
- Anderson L.W. (2004). *Increasing Teacher Effectiveness*. UNESCO: International Institute for Education Planning. Paris.
- Ankomah Y.A., Koomson J.A., Bosu R. A. & Oduro G. (2005). *A Review on the Concept of Quality in Education: Perspective from Ghana*. EdQual Working Paper No.1. University of Cape Coast. Ghana.
- Emmanuel, A.O., Adom, E.A., Josephine, B. and Solomon, F.K. (2014). Achievement Motivation, Academic Self-concept and Academic Achievement among High School Students. *European Journal of Research and Reflection in Educational Sciences*, 2(2), pp. 24-37.
- Etsy, K. (2005). *Causes of Low Academic Performance of Primary School Pupils in Theshamia Sub-Metro of Shama Ahanta East Metropolitan Assembly of Ghana*. Regional Conference of Education in West Africa, Dakar Senegal, 1st-2nd November 2005.
- Ghana Statistical Services. (2018). *Multiple Indicator Cluster Survey (MICS 2017/2018) Survey Findings Report*. Accra, Republic of Ghana.
- McBer, H. (2000). Research into Teacher Effectiveness: A Model of Teacher Effectiveness. (ateneu.xtec.cat/wikiform/wiklexport/_media/formgest/equips_directius/st02/bloc_5/5_rr216investigacio_professors_eficients.pdf) 最終閲覧日：2020年1月10日
- Ministry of Education (MoE). (2019a). *Education Sector Medium-Term Development Plan 2018-2021*. Accra, Republic of Ghana.
- Ministry of Education (MOE). (2019b). *Education Strategic Plan 2018-2030*. Accra, Republic of Ghana.
- Ministry of Education, Science and Sports (MESS) (2007). *Teaching Syllabus for Physical Education*

(Junior High School 1-3). Accra, Republic of Ghana
OECD (2015). *Universal Basic Skills: What Countries
Stand to Gain*. OECD Publishing, Paris.
UNICEF (2000). *Defining Quality in Education*.
UNICEF. New York. World Bank (2018).
Ghana Accountability for Learning Outcomes
Project (P165557).(<http://documents.worldbank.org/curated/en/612671545310563888/pdf/Concept-Project-Information-Documents-PID-Ghana-Accountability-for-Learning-Outcomes-Project-P165557.pdf>) 最終閲覧日：2019年7月
20日

Factors Affecting Student Learning Outcomes in Ghanaian Junior High Schools: A Comparative Study of High and Low-performing Schools

Mikako NISHIMUKO

Teikyo University

This paper examines factors affecting students' learning outcomes in Ghanaian junior high schools by investigating the similarities and differences in teacher and student practices and perspectives on education between high-performing schools and low-performing schools. Some concepts have been identified as improving teachers' effectiveness, such as teacher and student characteristics, curriculum, and classroom, all of which influence each other. Based on questionnaires from teachers and students, this research reveals that teachers at high-performing schools have a greater number of competencies, including greater enthusiasm, more teaching skills and knowledge, and a higher capacity to accept students compared to teachers at low-performing schools. Students at high-performing schools also study longer hours and have higher learning motivation, and many of them admire and respect their teachers as role models. At low-performing schools students struggle more with teacher absences and punctuality as well as teachers' use of corporal punishment, shouting, and verbal insults. Without timely and sufficient capitation grants, the school management struggles to expand their decision making that decentralization had sought to effect. However, teachers at both high and low-performing schools have engaged in teaching and learning improvement practices, such as teacher training workshops, school cleaning, and counselling. This paper illustrates that while implementing curriculum and managing the environment and classroom culture are important targets for improvement, teachers' professional competencies, including their qualities, attitudes, skills, and knowledge, also need to be improved since they link to other factors affecting students' learning outcomes, such as students' skills, knowledge, attitudes, and aptitude.